

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第1区分

【発行日】平成18年5月18日(2006.5.18)

【公開番号】特開2000-354856(P2000-354856A)

【公開日】平成12年12月26日(2000.12.26)

【出願番号】特願平11-169018

【国際特許分類】

**C 0 2 F 1/00 (2006.01)**

**C 0 2 F 1/50 (2006.01)**

**C 0 2 F 1/72 (2006.01)**

**G 0 1 N 21/78 (2006.01)**

【F I】

C 0 2 F 1/00 V

C 0 2 F 1/50 5 1 0 A

C 0 2 F 1/50 5 1 0 C

C 0 2 F 1/50 5 3 2 C

C 0 2 F 1/72

G 0 1 N 21/78 C

【手続補正書】

【提出日】平成18年3月20日(2006.3.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0055

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0055】

ポリカルボン酸類とイソチアゾロン類とを純水に加えて、両水処理用薬品濃度を変えて一連の試料水を調製した。これらは、ポリカルボン酸類濃度が7.9ppm(A-1が2.2ppm、A-2が5.7ppm)、イソチアゾロン類濃度が0.438ppmの試料水、ポリカルボン酸類濃度が15.8ppm(A-1が4.4ppm、A-2が11.4ppm)、イソチアゾロン類濃度が0.865ppmの試料水、ポリカルボン酸類濃度が31.6ppm(A-1が8.8ppm、A-2が22.8ppm)、イソチアゾロン類濃度が1.75ppmの試料水であった。また、参照試料水として、純水の他に、上記の各試料水と同じポリカルボン酸類濃度のポリカルボン酸のみを含む一連の試料水、および、上記の各試料水と同じイソチアゾロン類濃度のイソチアゾロン類のみを含む一連の試料水も純水を用いて調製した。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0056

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0056】

インジェクター3から各試料水を100μL(マイクロリットル、以下同様)ずつキャリア液中に注入し、試料酸化反応器5にて酸化処理を施した後、混合器6に導入した。